

同種施設比較分析表

(平成30年度行政評価実施施設分)

青梅市が運営している施設のうち、平成30年度に行政評価を実施した12施設について、行政コスト計算書や貸借対照表といった、新公会計制度の導入により明らかになった情報をもとに、同種施設間による比較分析表を作成しました。

同種施設間の運営コスト等を比較・分析することにより、今後の施設運営において、コストの削減や事業目的の達成に向けた成果の拡大につなげます。

なお、施設ごとの詳細内容につきましては、個別の行政評価シートをご覧ください。

目次

1	市民センター	・・・	1
2	高齢者センター（福祉センター） 地域保健福祉センター	・・・	2
3	郷土博物館・美術館	・・・	3

同種施設比較分析表【市民センター】

	青梅	長淵	大門	東青梅	新町	河辺	今井
評価シートNo.	1	2	3	4	5	6	7
建設年度（センター）	S45	S51	S46	S56	S60	S59	H12
建設年度（体育館）	S56	S51	S46	S52	S59	S59	H10
有形固定資産減価償却率	83.6%	86.6%	89.2%	82.7%	75.7%	93.9%	59.1%

（単位：千円）

経常費用	業務費用	人件費	29,016	29,016	29,016	29,016	29,016	29,016	29,016
		物件費等	25,436	11,568	17,108	16,380	19,937	16,990	24,262
	物件費	19,046	9,105	10,386	12,340	10,683	10,687	12,290	
	維持補修費	74	494	4,736	195	812	1,379	947	
	減価償却費	6,316	1,969	1,986	3,845	8,442	4,924	11,025	
	その他	0	0	0	0	0	0	0	
	その他の業務費用	98	92	93	97	98	98	239	
	移転費用								
	補助金等	0	0	0	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	0	0	0	
経常費用合計		54,550	40,676	46,217	45,493	49,051	46,104	53,517	

単位当たりコスト分析	センター延床面積 (㎡)	980.77	754.13	808.45	753.28	796.88	771.84	826.96
	1㎡当たりコスト (円)	55,620	53,938	57,167	60,393	61,554	59,733	64,715
	体育館延床面積 (㎡)	837.00	612.43	651.01	868.61	907.05	923.01	898.30
	1㎡当たりコスト (円)	65,173	66,417	70,993	52,374	54,078	49,950	59,576
	会議室稼働率 (%)	64.6	33.5	40.4	58.9	54.6	55.9	44.7
	1%当たりコスト (円)	844,427	1,214,209	1,143,985	772,377	898,370	824,759	1,197,248
体育館稼働率 (%)	65.0	68.7	69.7	72.3	80.1	76.4	75.9	
1%当たりコスト (円)	839,231	592,082	663,085	629,225	612,372	603,456	705,099	

市民1人当たりコスト (円) (H29.4.1現在人口)	402.4	300	340.9	335.6	361.8	340.1	394.8
---------------------------------	-------	-----	-------	-------	-------	-------	-------

分析説明	<p>①有形固定資産減価償却率の特徴について 有形固定資産減価償却率は、建物、工作物および物品の合計取得価格の減価償却率を表したもので、原則、年数を経るごとに、その率は高くなりますが、改修工事や新たな工作物等が発生すると、それらが資産として新たに加算されるため、減価償却率は下がることとなります。 河辺市民センターについては、建築年が今井市民センターを除く他の市民センターよりも新しい、または同時期であるものの、他のセンターに比べ、新たに加わった資産が少ないため、減価償却率が高くなっています。</p>
	<p>②人件費について 人件費の計算に当たっては、主管課に配置されている職員の年齢による偏差を無くすため、正規職員および再任用職員の平均給与額を用い、各事業に携わる人員数を乗じて算出しています。 市民センターについては、いずれも同数の人員体制で算出しているため、同額となっています。</p>
	<p>③物件費について 青梅市民センターが、他の施設に比べ高額となっているのは、主に市民センターと体育館の設置場所および利用方法が異なることにより、施設管理委託料が分かれていることによるものです。</p>
	<p>④維持補修費について 大門市民センターが、他の施設に比べ高額となっているのは、高圧受電設備および高圧引込設備修繕を行ったことによるものです。</p>
	<p>⑤会議室・体育館稼働率1%当たりコストの特徴について 他のセンターと比べ稼働率が高くても、経常費用が高額な場合、単位当たりコストは高くなります。 長淵、大門、今井市民センターについては、会議室の稼働率が低いことから、単位当たりコストが高くなっています。 なお、経常費用については、センター・体育館別となっていないため、会議室および体育館の単位当たりコストを計算するうえでの分母は、いずれも同じ経常費用合計額を用いています。</p>

同種施設比較分析表 【高齢者センター（福祉センター）・地域保健福祉センター】

		高齢者センター（福祉センター）	沢井保健福祉センター	小曾木保健福祉センター
基本情報	評価シートNo.	8	9	10
	建設年度	S46	H5	H7
	有形固定資産減価償却率	99.3%	68.5%	67.4%

（単位：千円）

経常費用	業務費用	人件費	670 (1,772)	1,772	1,772
		物件費等	45,870 (121,348)	22,375	26,148
		物件費	38,717 (102,425)	16,690	18,516
		維持補修費	1,447 (3,827)	352	864
		減価償却費	5,706 (15,096)	5,333	6,768
		その他	0 (0)	0	0
	その他の業務費用	46 (122)	11	13	
	移転費用	補助金等	0 (0)	0	6
		その他	0 (0)	0	0
	経常費用合計		46,586 (123,242)	24,158	27,939

※福祉センターは複合施設のため、保健福祉センターとの同種施設比較を行うことを目的に、高齢者センター部分とそれ以外の施設部分の利用者数をもとにコストを按分し、高齢者センター分としてのコストを試算しました。
なお、本ページにおける福祉センター部分のカッコ内の数値は、いずれも福祉センター全体のものとなります。

単位当たりコスト分析	延床面積（㎡）※1	6,565.04	540.48	701.77
	1㎡当たりコスト（円）※1	18,772	44,697	39,812
	延利用者数（人）※2	43,887 (116,081)	10,205	20,776
	1人当たりコスト（円）	1,062	2,367	1,345

※1 福祉センターについては、総面積で算出。

※2 保健福祉センターについては、入浴施設利用者数。

市民1人当たりコスト（円） （H29.4.1現在人口）	343.6 (909.1)	178.2	206.1
--------------------------------	---------------	-------	-------

分析説明	①人件費について 人件費の計算に当たっては、主管課に配置されている職員の年齢による偏差を無くすため、正規職員および再任用職員の平均給与額を用い、各事業に携わる人員数を乗じて算出しています。 福祉センター（全体）および沢井・小曾木保健福祉センターについては、いずれも同数の人員体制で算出しているため、同額となっています。
	②物件費について 2つの保健福祉センターの物件費は、指定管理者に対する施設管理委託料が主となります。
	③維持補修費について 2つの保健福祉センターのうち、小曾木保健福祉センターが高額となっているのは、空調機の修繕を行ったことによるものです。
	④利用者数および1人当たりコストについて 高齢者センターの利用者数については、沢井・小曾木保健福祉センターと比較し、多くなっていますが、この利用者数には、入浴施設以外の施設部分を利用した人数も含まれています。

同種施設比較分析表【郷土博物館・美術館】

		郷土博物館	美術館
基本情報	評価シートNo.	11・12	13
	建設年度	S47（収蔵庫S62）	S58
	有形固定資産減価償却率	77.2%	80.1%

（単位：千円）

経常費用	業務費用	人件費	14,085	30,517
		物件費等	15,964	41,940
		物件費	12,099	28,984
		維持補修費	298	2,596
		減価償却費	3,567	10,360
		その他	0	0
	その他の業務費用	11	347	
	移転費用	補助金等	60	30
		その他	0	0
	経常費用合計		30,120	72,834

※実際の評価では、それぞれの事業特性を考慮し、郷土博物館については「郷土博物館管理事業」と「郷土博物館事業」を個別に評価、また、美術館については「美術館管理事業」と「美術館事業」を合算して評価するなど、評価方法が異なりますが、上記経常費用は、いずれも管理事業経費と事業経費を合算したものとなります。

単位当たりコスト分析	延床面積（㎡）	1,461.29	1,674.01
	1㎡当たりコスト（円）	20,612（14,640）	43,509
	年間入館・観覧者数（人）	17,608	9,348
	1人当たりコスト（円）	1,711（1,215）	7,791

※郷土博物館の面積は、収蔵庫（675.12㎡）を合算したものとなります。また、郷土博物館のカッコ内の数字は、「郷土博物館管理事業」の評価シートに掲載されている経常費用合計額から算出した額となります。

市民1人当たりコスト（円） （H29.4.1現在人口）	222.2（157.8）	537.2
--------------------------------	--------------	-------

※郷土博物館のカッコ内の数字は、「郷土博物館管理事業」の評価シートに掲載されている市民1人当たりコストとなります。

分析説明	①人件費について 人件費の計算に当たっては、主管課に配置されている職員の年齢による偏差を無くすため、正規職員および再任用職員の平均給与額を用い、各事業に携わる人員数を乗じて算出しています。 なお、郷土博物館管理事業および郷土博物館事業の合計人員体制は1.59人（郷土博物館管理事業0.65人、郷土博物館事業0.94人）、美術館事業の人員体制は3.90人となっています。
	②物件費等の特徴について 美術館は、その施設特性から、郷土博物館に比べ以下の点で相違があります。 【物件費】光熱水費や設備保守委託料が高額となっているほか、美術品の保管料や作品表装等委託料、作品運搬委託料などが含まれています。 【維持補修費】高圧変成器、空調自動制御機器、非常照明などといった施設の老朽化に伴う修繕を行っています。
	③年間入館・観覧者1人当たりコストの特徴について 美術館の観覧者1人当たりコストが高いのは、郷土博物館よりも経常費用が高額であるなか、展覧会の開催に合わせた開館となるため、通年開館である郷土博物館と比べ、開館日数が少ないことが影響していると推察されます。